

序章 歴史文化基本構想の策定

1 歴史文化基本構想の目的と対象範囲

1) 歴史文化基本構想の目的と意義

広く一般に歴史や伝統文化に対する愛着や関心が高まる一方で、少子高齢社会の浸透など社会構造や価値観の変化に伴い、伝統的な祭りなどの地域固有の歴史文化や、長い歴史の中で守り伝えられてきた知や技が失われつつあります。

また、地域活性化を進め個性あふれる地域づくりを行うためには、地域のアイデンティティーを確保し、その精神的な拠り所として文化財や伝統的な文化の価値が高まっています。

このような現状を踏まえて、平成19年10月30日に文化審議会文化財部会企画調査会により、文化財の保存と活用に関する新たな方策について提言が行われました。

文化財は、地域の環境の中で、人々の営みや長い歴史によって価値が見いだされ、守り伝えられてきました。単独で存在するよう見える文化財でも、周辺環境や様々な文化財と関連性を保ちながら存在しています。そのため、関連する文化財と周辺環境も含めて総合的に把握し、一定のテーマを設定した「関連文化財群」という枠組みに基づいて新たな価値を見だし、文化財の保存活用を図っていくことが提言されています。

また、文化財の保存と活用を適正化するため、「歴史文化基本構想」を策定し、それに基づいて「保存活用計画」で方針を定めて、まちづくりや地域振興、観光振興などの行政計画との連携を強化し、歴史・文化を活かした魅力あるまちづくりが求められています。

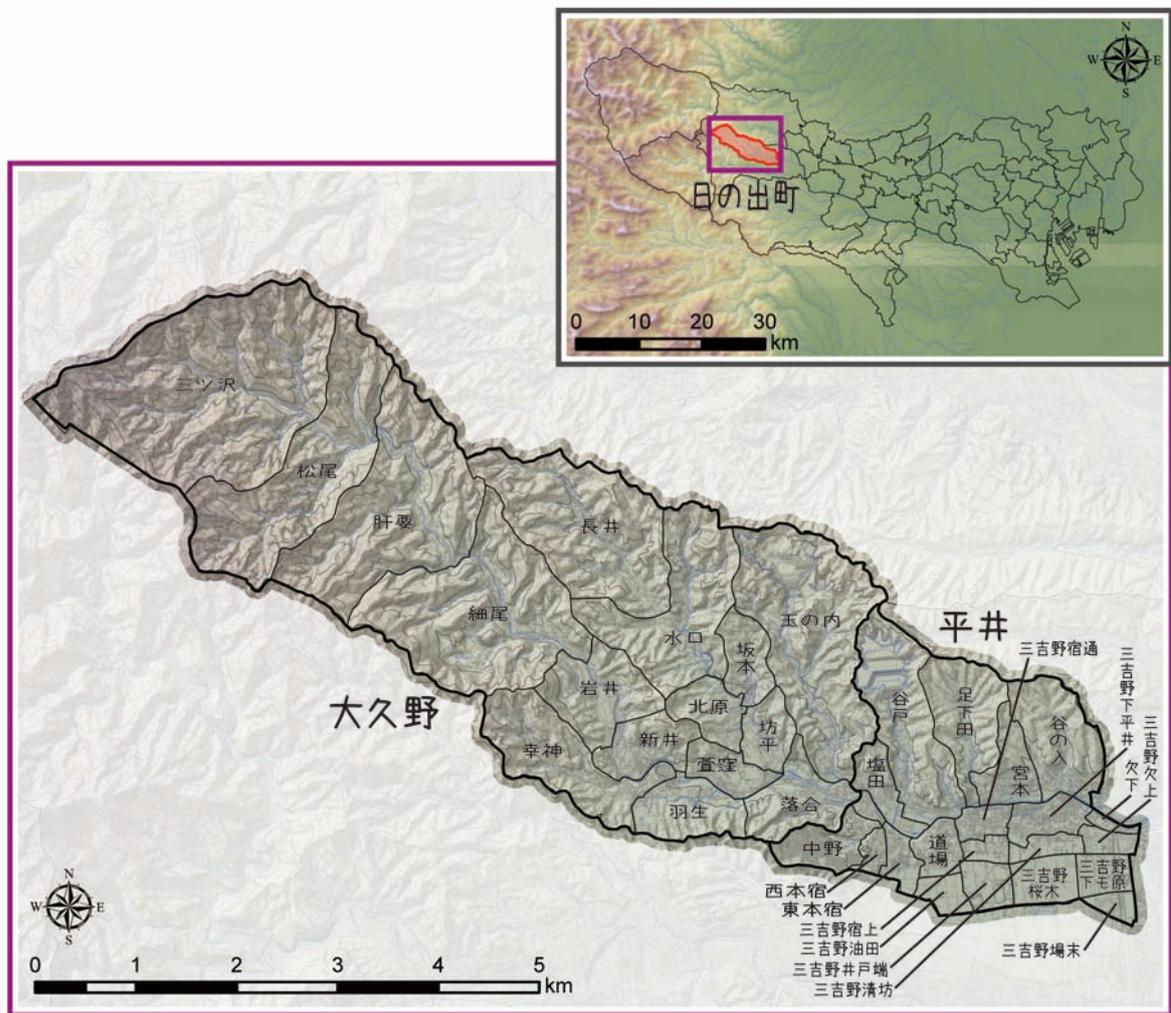
この提言に基づいて、平成20年度に文化庁が「文化財総合的把握モデル事業」の公募を行い日の出町が採択され、平成20～22年度の3カ年の間に事業を進めてまいりました。

日の出町では、町史編さん事業をはじめ、考古学調査、土蔵や古民家の調査など、文化財に係わる様々な調査を行い、原始から近現代まで様々な文化財が今も伝えられています。

本構想では、長い歴史の中で生まれ伝えられてきた文化財を、自然や景観など周辺環境も含めて一体的に捉え直し、日の出町の歴史文化の特性や、新たな価値を探り見出すことを目的としています。

2) 本構想の対象範囲

本構想は、日の出町全域を対象としました。また、指定・未指定を含む有形・無形文化財の全てを対象とし、それらを取りまく自然環境・社会環境・景観なども対象としています。



<本構想の対象範囲>

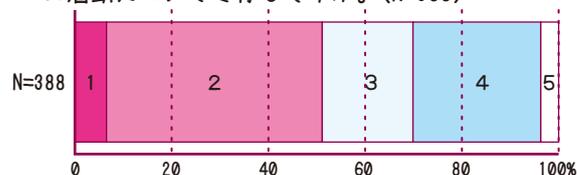
2 歴史文化基本構想策定の経緯と方法

1) 住民の意向

文化財は、各地域の人々によって価値を見いだされ、長い歴史を経て、現在まで守り伝えられてきました。そのため、地域の住民の方々の歴史文化に対する意向や、求めているものを把握し、その結果を踏まえることに重点を置き、文化財の調査や「関連文化財群」の設定などの構想策定の作業を進めました。

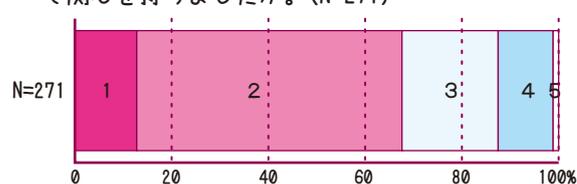
「歴史文化に関する住民意向調査」は、平成20・21年度に行いました(詳細は別添CD中)。その結果、本構想を策定することを目的とした「文化財合的把握モデル事業」の認知度は51%を占め、さらに、歴史文化を活かしたまちづくりの取り組みについては、67.5%の住民が関心を持っていることがわかりました。またこれらを認知した媒体としては、「日の出町広報誌」が84.5%と大半を占める一方で、住民モニターが作成した「町民レポート」も18.1%を示しています。このように、事業に対する認知や、歴史文化に対する意識や関心が高く、住民が自らの視線で書いた町民レポートも事業の周知に効果が表れています。

Q あなたは町の歴史文化を生かした「まちづくり」の活動についてご存じですか。(N=388)



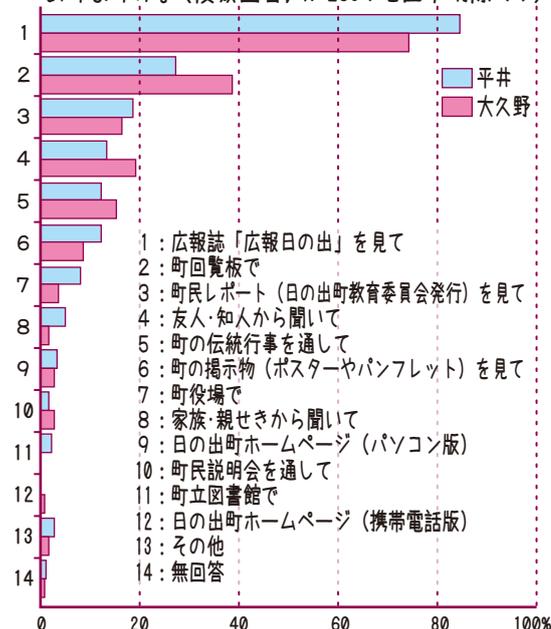
1: 内容まで知っている 2: 見聞きしたことがある程度
3: 見聞きしたような気がする 4: 全く知らない 5: 無回答

Q あなたが町の歴史文化を生かした「まちづくり」の活動を見聞きしたとき、その取り組みについて関心を持ちましたか。(N=271)



1: とても関心を持った 2: どちらかといえば関心を持った
3: どちらかといえば関心を持たなかった
4: あまり関心を持たなかった 5: 無回答

Q あなたは町の歴史文化を生かした「まちづくり」の活動について、どちらから見聞きしたことがありますか。(複数回答、N=263<地区不明除く>)

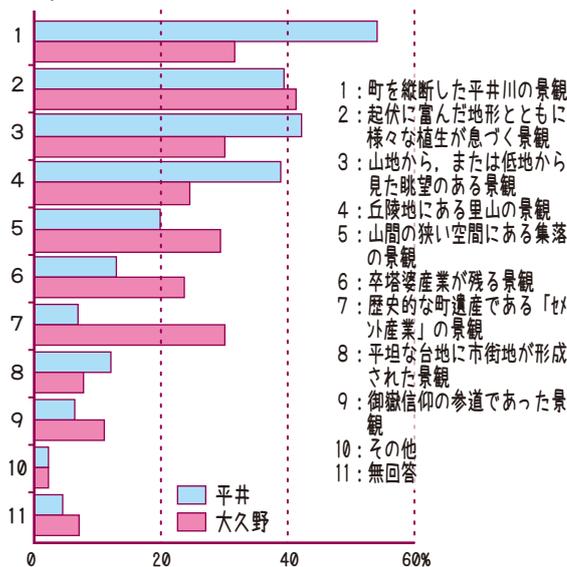


<アンケート結果(その1)>

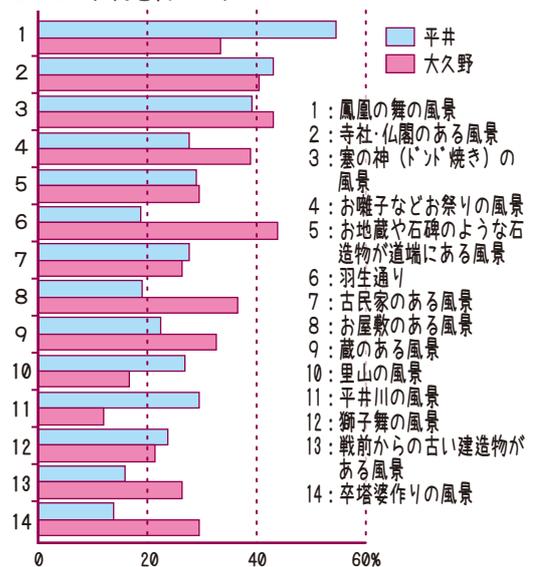
代表的な景観では、全般的に自然環境を指向していますが、平井地区は自然への志向がより高く、大久野地区では卒塔婆など地区に所在する歴史的な景観を指向しています。

また、歴史を感じる場所や風景では、平井・大久野地区とも身近な場所や風景を指向し、お屋敷や蔵など歴史的な建造物は大久野地区がより高い傾向が伺えます。

Q あなたが思い浮かべる、町の代表的な景観イメージとは何ですか。(複数回答、N=372<地区不明除く>)



Q あなたにとって、町の「歴史」を感じる場所、風景とは何ですか。(複数回答、N=372<地区不明及び20%未満を除く>)



Q 日の出町の風習や習慣、伝承などについて、あなたはどのようなことを後世に伝えていきたいと思えますか。(自由回答、上位10件のみ)



Q 日の出町にある場所や建物、自然・風景について、あなたは今後どのようなものを残していきたいと思えますか。(自由回答、上位10件のみ)



Q1: 町の代表的な景観では、平井地区の住民は1:平井川, 2:起伏に富んだ地形, 3:眺望のある景観, 4:里山の景観など自然環境を指向する傾向が伺えます。一方、大久野地区の住民は、平井地区と同じ自然環境の景観イメージも高率ですが、5:山間集落の景観, 6:卒塔婆産業の景観, 7:セメント産業の景観など、大久野地区に所在している景観を指向しています。9:御嶽参道の景観は平井・大久野地区とも低率で、遠い存在になっていますが、大久野地区は割合が高くなっています。

Q2: 歴史を感じる場所や風景では、平井地区の住民は、1:鳳凰の舞が高率で、2:神社・仏閣, 3:サイノカミの風景が高く、10:里山の風景, 11:平井川の風景が大久野地区より高くなっています。一方、大久野地区の住民は、4:祭りの風景, 6:羽生通り, 8:お屋敷のある風景, 13:古い建造物, 14:卒塔婆作りの風景などが、平井地区より高率になっています。

Q3: 後世に伝えたい風習などは、1サイノカミ行事, 2鳳凰の舞が高率で、Q4: 後世に残したい建物や自然・風景では、1平井川, 2神社仏閣, 3里山の風景, 4羽生通りとなっています。

<アンケート結果(その2)>

事業に先だって実施した調査に関する住民提案では、以下に示す 12 件の提案が寄せられました。その内容については、調査の方法や構想の考え方に取り入れながら事業を進めました。

<調査に関する住民提案の内容>

- 提案1： 日の出町の自然環境調査：町の自然財産が開発等で失われる前に、動植物等の自然環境を総合的に把握し、住民の心のよりどころとして保存活用を図ってほしいです。
- 提案2： 社寺所有の七福神及び地名の由来：七福神の札所を起し、巡礼道を作り、土地の由来の案内板を設置すると多くの人が訪れ、住民が地域に愛着を持つようになると思います。
- 提案3： 勝峰山：勝峰山は大正時代から石灰の採掘が行われていますが、以前は石灰が露出し角岩と言う奇岩があったそうです。その頃の様子や、伝説などを調べてほしいです。
- 提案4： 野生動植物の再調査：町史編纂の際に調べ切れなかった野生動植物の調査を行ってほしいです。また、動植物は時と共に変化するので、定期的な調査が必要だと思います。
- 提案5： 屋敷神の調査：町内の屋敷神や町史から漏れてしまった金石仏を調べてほしいです。
- 提案6： 古道・家並みの調査：明治・大正生まれの人が元気なうちに、古道や家並み、平井市の店、井戸等についての聞き取り調査をしてほしいです。
- 提案7： 宝暦箱訴騒動関連の調査：宝暦箱訴騒動記録の厳密な検討を行い、関連する史跡・文化財を総合的に調査し、先祖たちが命をとって戦った歴史を後世に伝えてほしいです。
- 提案8： 伊奈石製石造物の調査：町内に多数存在する伊奈石製の石造物は、重要な金石文です。伊奈石は風化しやすいため、価値が失われる前に調査をし、後世に伝えてほしいです。
- 提案9： 町指定文化財の調査見直し：町指定文化財の再調査を行い、説明版や案内板等の設置、交換等を行い、文化財をしっかりと後世に残してほしいです。
- 提案10： イオン駐車場の地底ロマン：三吉野遺跡群井戸端地区の発掘調査で見つかった「室谷下層式土器」の破片や遺構の年代測定の結果等を詳しく知りたいです。
- 提案11： 日の出町の自然史：平井川を中心に、日本のトンボの4分の1の種が生息するなど、豊かな昆虫相が存在します。それら生物を含めた博物史を作るべきだと思います。
- 提案12： 古民家や里山の活用法：羽生地区に見られるような、古民家群や昔ながらの暮らしぶりを財産と考え守り伝えてほしいです。活用の仕方も含めて調査することを希望します。

<住民提案への対応方法>

住民提案は、何れも調査にとって大事な視点を示していることから、以下のように、調査や構想に考え方を取り入れました。なお、提案10は、別途に調査結果を公開しました。

- ・ 提案1・4・6・7・9・11・12は、景観関係調査と生物学関係調査に反映させます。
- ・ 提案2は、仏教美術関係調査に反映させます。
- ・ 提案3・5・6・9・12は、民俗関係調査に反映させます。
- ・ 提案6・12は、建築学関係調査に反映させます。
- ・ 提案5・8は、石造物関係調査に反映させます。
- ・ 提案7・9は、関連文化財群および保存活用計画の立案に考え方を反映させます。

2) 基本的な考え方

アンケートの「町の代表的な景観」では、平井地区は自然環境を指向し、大久野地区は卒塔婆・セメント産業など地区に所在する歴史的な景観を指向しており、平井地区は自然、大久野地区は歴史という捉え方ができます。

また、「歴史を感じる場所や風景」では、平井地区は、鳳凰の舞や神社仏閣などが、また大久野地区は、お囃子などお祭りの風景、羽生通り、お屋敷のある風景、蔵のある風景、戦前からの古い建物がある風景、卒塔婆作りの風景などが多くあげられています。

平井地区と大久野地区のこのように異なった状況は、身近に感じられる歴史文化の要素が、平井地区は自然や伝統的な行事である鳳凰の舞などが象徴的なものである一方、大久野地区は卒塔婆やセメント産業、羽生通りの景観など歴史的な佇まいや景観が象徴的なものであることを示しています。

平井地区は現在もマチとして変貌しているため、地区内に残されている自然環境や神社仏閣などの建造物、鳳凰の舞など伝統的な民俗行事が歴史文化を構成する要素として捉えられていると考えられます。

大久野地区は、自然環境に関する景観が高率を示すほか、卒塔婆産業や羽生通りなどが象徴的に示しているように、歴史的な風景や佇まいがまだ残されていることによって、歴史的な建造物や歴史的な産業に関する景観が歴史文化を構成する要素として捉えられていると考えられます。

平井地区と大久野地区は、歴史的な変遷やまちづくりの方向性とも関連して、文化財や歴史文化の特徴が、以下のとおり要約できます。

平井地区

マチとして変貌してきた地域であることから、歴史的な建造物や景観は認知されるものが少なく、現在まで守り伝えられてきた神社仏閣などが歴史を感じさせる有形物として認知されています。歴史的な有形物が認知されるものが少ない反面、伝統的な民俗行事である鳳凰の舞や自然環境などが地域の精神的な拠り所になっており、地区を特徴づける文化財として認知されています。

大久野地区

良好な自然環境を背景に、屋敷構えや自然環境と歴史的な景観など、文化財と周辺環境が一体となって歴史的な風致が守り伝えられている地域です。また、このような環境と、伝統的な行事や習慣などが守り伝えられている地域であり、地区を特徴づける文化財となっています。

「歴史文化に関する住民意向調査」の結果から、地区の文化財や歴史文化に関する住民の方々の意向や、文化財や歴史文化を求める力を読み取ることができました。

この現状を踏まえて、本構想で日の出町の歴史文化を再検討するために、以下の点を文化財の総合的な把握のための調査や、歴史文化の再検討を行うための基本的な考え方としました。

- ・平井地区と大久野地区のそれぞれの歴史文化の特性を踏まえて、文化財を総合的に把握すること。
- ・日の出町の歴史的な変遷の中で、大きな画期や出来事を歴史文化の特徴として捉えること。
- ・文化財としての意味や大切さが認知されていないものを掘り起こし、再評価を加えること。

3) 歴史文化基本構想策定に係わる経緯

(1) 経緯

歴史文化基本構想は平成 20 年度より開始した「文化財総合的把握モデル事業」に基づいて策定しています。以下に、策定に係わる経緯を年度ごとに整理しました。

<平成 20 年度>

「文化財総合的把握モデル事業」文化庁へ申請：平成 20 年 6 月 18 日
文化庁選定結果公表(申請 52 件・採択 20 団体)：平成 20 年 8 月 20 日

1. 歴史文化基本構想策定委員会

平成 20 年 11 月 11 日(第1回) 12 月 25 日(第2回)
平成 21 年 3 月 22 日(第3回：公聴会) 3 月 27 日(第4回)

2. 事業内容広報

自治会回覧で周知，調査住民提案等を併せて公募(平成 20 年 10 月 15 日)

3. 調査に関する住民提案等公募

平成 20 年 10 月 15 日～11 月 5 日
① 調査住民提案公募(提案件数 12) ② 住民モニター公募(5 名応募)
③ 策定委員会に協力する NPO 法人等公募(1 団体応募)

4. 調査に関する住民提案等選定

平成 20 年 11 月 6 日～12 月 25 日
最終選定は，12 月 25 日実施の第 2 回歴史文化基本構想策定委員会による

5. 調査住民提案等説明会

平成 21 年 1 月 13 日

6. 文化財調査

① 民俗調査 ② 仏像調査 ③ 建築調査 ④ 生物調査 ⑤ 景観調査
平成 20 年 11 月～平成 21 年 3 月

7. 歴史文化に関する住民意向調査

平成 21 年 3 月 2 日～3 月 31 日

<平成 21 年度>

1. 歴史文化基本構想策定委員会

平成 21 年 5 月 7 日(第5回)
平成 21 年 8 月 14 日(第6回)

2. ワーキンググループ(構想推進及び検討)

平成 21 年 5 月 25 日(第1回) 6 月 30 日(第2回) 7 月 21 日(第3回)

3. 文化財調査

① 民俗調査 ② 仏像調査 ③ 建築調査 ④ 石造物調査 ⑤ 生物調査 ⑥ 景観調査
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月



<文化財調査(石造物調査)>

4. 歴史文化に関する住民意向調査

平成 22 年 3 月 1 日～ 3 月 31 日

5. 広報及びシンポジウム事業

「日の出町の歴史文化」町民大学講座

：平成 21 年 9 月 24 日

「平井ッ原の地形と縄文人」井戸端地区シンポジウム

：平成 22 年 3 月 22 日

6. 文化財総合的把握モデル事業中間報告会

平成 21 年 7 月 4・5 日：(高山市)

<平成 22 年度>

1. 歴史文化基本構想策定委員会

平成 22 年

7 月 5 日 (第 7 回) 12 月 24 日 (第 8 回)

平成 23 年

1 月 19 日 (第 9 回) 2 月 18 日 (第 10 回)

2. ワーキンググループ (構想推進及び検討)

平成 22 年

5 月 25 日 (第 4 回) 6 月 30 日 (第 5 回)

7 月 20 日 (第 6 回) 7 月 21 日 (第 7 回)

8 月 14 日 (第 8 回) 9 月 6 日 (第 9 回)

11 月 1 日 (第 10 回) 11 月 12 日 (第 11 回)

平成 23 年

1 月 14 日 (第 12 回) 1 月 21 日 (第 13 回)

2 月 7 日 (第 14 回) 2 月 16 日 (第 15 回)

3 月 1 日 (第 16 回) 3 月 10 日 (第 17 回)

3. 住民懇談会

第 1 回：平成 22 年 11 月 16 日 (平井地区)

第 2 回：平成 22 年 11 月 17 日 (大久野地区)

第 3 回：平成 22 年 11 月 18 日

4. 文化財総合的把握モデル事業中間報告会

平成 22 年 7 月 28 日：(文化庁)

5. 「歴史文化基本構想」シンポジウム

平成 23 年

2 月 5 日：(東京会場)

2 月 8 日：(高砂会場)

2 月 18 日：(盛岡会場)

2 月 26 日：(金沢会場)

3 月 13 日：(福岡会場)

3 月 26 日：(津和野会場)



<町民大学講座>



<井戸端地区シンポジウム>



<歴史文化基本構想策定委員会>



<住民懇談会>

(2) 事業の実施体制

<歴史文化基本構想等策定委員会委員>

川久保 敦史	(文化財行政)	日の出町教育担当参事 (～平成 22 年 3 月 31 日)
森田 嘉和	(文化財行政)	日の出町教育担当参事 (平成 22 年 4 月 1 日～)
木崎 孝二	(企画行政)	日の出町企画調整担当参事
山田 時夫	(都市計画行政)	日の出町まちづくり課長 (～平成 22 年 3 月 31 日)
	(農業振興・観光行政)	日の出町産業観光課長 (平成 22 年 4 月 1 日～)
星野 義信	(都市計画行政)	日の出町まちづくり課長 (平成 22 年 4 月 1 日～)
	(農業振興・観光行政)	日の出町産業観光課長 (～平成 22 年 3 月 31 日)
田中 敏正	(都市防災行政)	日の出町生活安全安心課長 (～平成 22 年 3 月 31 日)
清水 昌彦	(都市防災行政)	日の出町生活安全安心課長 (平成 22 年 4 月 1 日～)
小菅 政治	(文化財行政)	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
上野 雄一	(都市計画行政)	東京都都市整備局市街地建築部市街地企画課長 (～平成 21 年 3 月 31 日)
飯泉 洋	(都市計画行政)	東京都都市整備局都市づくり政策部景観担当課長 (平成 21 年 4 月 1 日～)
武田 直克	(農業振興行政)	東京都産業労働局農林水産部農業振興課長
八巻 義昌	(住民代表)	日の出町文化財保護審議会 会長 (～平成 22 年 10 月 31 日)
宮岡 岩雄	(住民代表)	日の出町文化財保護審議会 副会長 (平成 22 年 11 月 1 日～)
小林 民雄	(住民代表)	日の出町都市計画審議会 会長
上野 正雄	(住民代表)	日の出町農業委員会 会長
浦 信夫	(住民代表)	日の出町商工会副 会長
亀山 章	(学識経験者)	東京農工大学 名誉教授 (景観生態学)
山田 幸正	(学識経験者)	首都大学東京都市環境学部建築都市コース 教授 (建築学)
草野 保	(学識経験者)	首都大学東京都市教養学部理工学系生命科学コース 助教 (生物学)
副島 弘道	(学識経験者)	大正大学文学部 教授 (仏教美術学)
小野寺 節子	(学識経験者)	國學院大學文学部 講師 (民俗学)
和田 哲	(学識経験者)	日本考古学協会員・日の出町遺跡調査会副会長 (考古学)
井本 郁子	(学識経験者)	NPO法人地域自然情報ネットワーク 副理事長 (構想策定担当)
大橋 竜太	(学識経験者)	東京家政学院大学現代生活学部現代家政学科 教授 (構想策定担当)
内山 孝男	(学識経験者)	「伊奈石の会」代表

<住民モニター>

鎌田 光美, 宮野 浩二, 武智 昭一, 森田 康子, 奥山 真実 (日の出町住民)

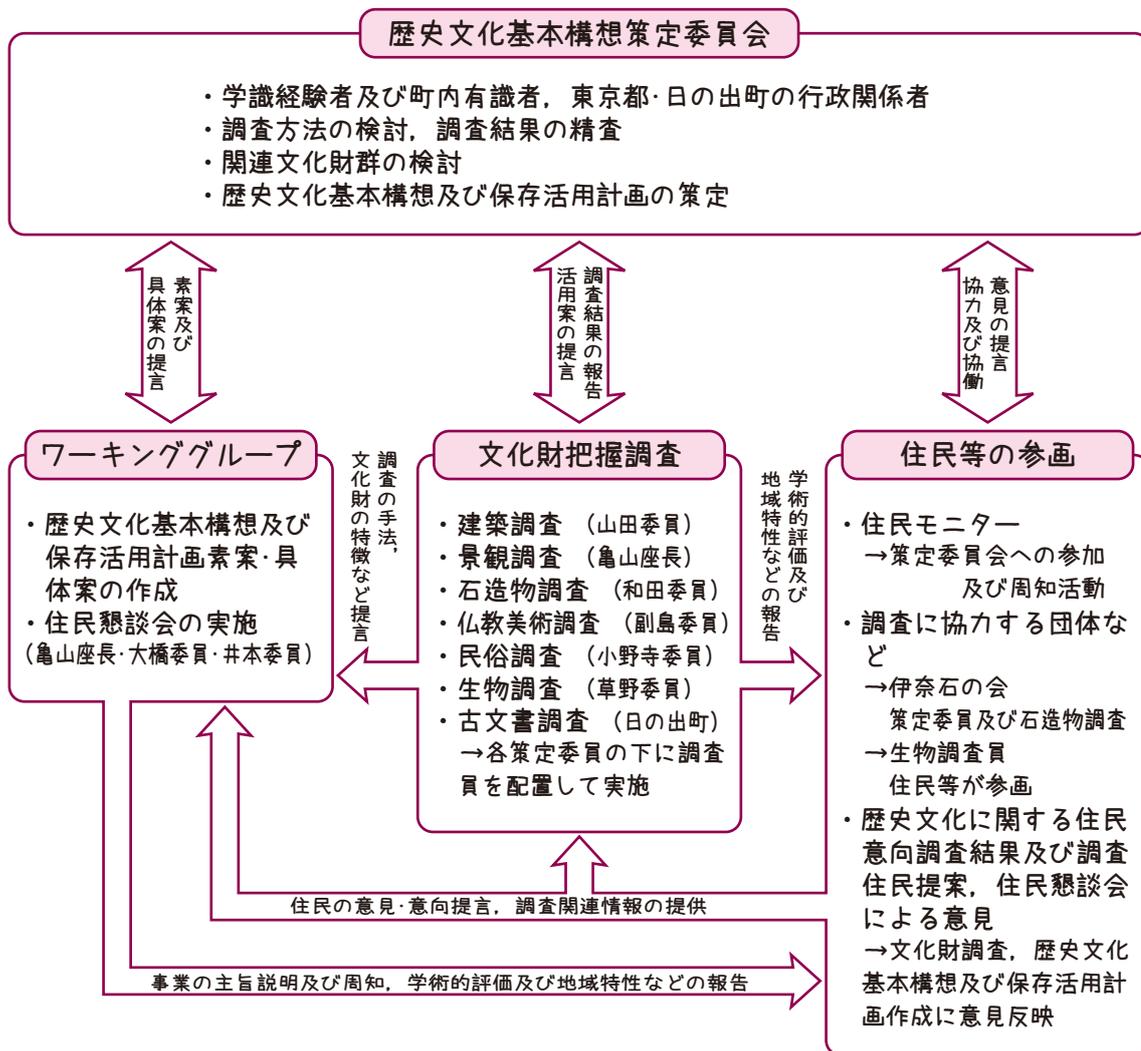
<ワーキンググループ>

亀山 章, 井本 郁子, 大橋 竜太 (歴史文化基本構想策定委員)

<事務局>

竹花 邦雄	日の出町教育委員会文化スポーツ課長 (～平成 22 年 3 月 31 日)
平田 久男	日の出町教育委員会文化スポーツ課長 (平成 22 年 4 月 1 日～)
北島 康生	日の出町教育委員会文化スポーツ課文化財係長 (～平成 22 年 7 月 1 日)
佐伯 秀人	日の出町教育委員会文化スポーツ課文化財係
池田 昇	日の出町教育委員会文化スポーツ課文化財係
森田 正樹	日の出町教育委員会文化スポーツ課文化財係 (平成 22 年 10 月 1 日～)
田中 章介	日の出町教育委員会文化スポーツ課文化財係

(3) 組織概念図



<組織概念図>

4) 歴史文化基本構想の策定方法

基本的な考え方をうけ、以下の4つを方針として本構想を策定しました。

- ① 歴史文化の総合的な把握とそれに基づく計画策定
- ② 地域住民の参画
- ③ GISの活用による総合的な把握と検討
- ④ 行政計画としての位置づけ

① 歴史文化の総合的な把握とそれに基づく計画策定

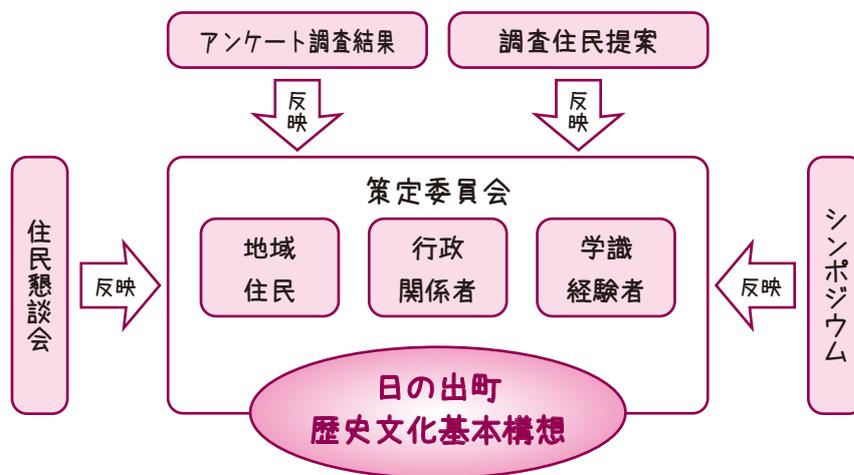
「日の出町文化財総合的な把握モデル事業」や町史などの歴史文化に係わる様々な分野の調査結果に基づいて、計画の策定を行いました。



<総合的な把握に基づいた計画の策定>

② 地域住民の参画

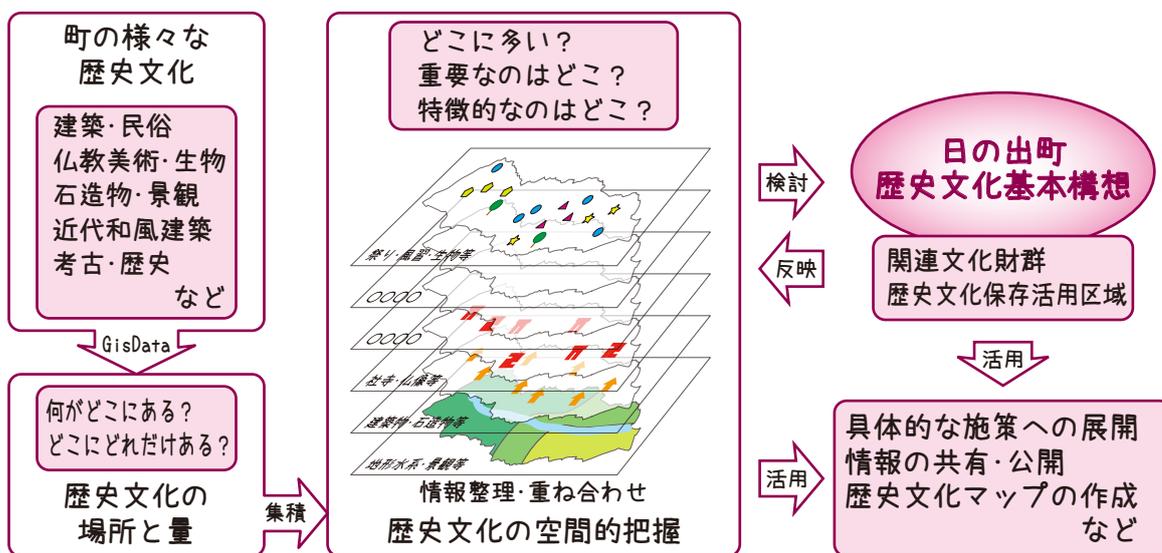
住民が参画した策定委員会において検討を行いました。検討の際にはこれまでに行われたアンケート調査結果をもとにして、住民懇談会やシンポジウムの開催等により地域住民の声を取り入れ、住民の意思を尊重した計画の策定を行いました。



<地域住民の参画>

③ GISの活用による総合的把握と検討

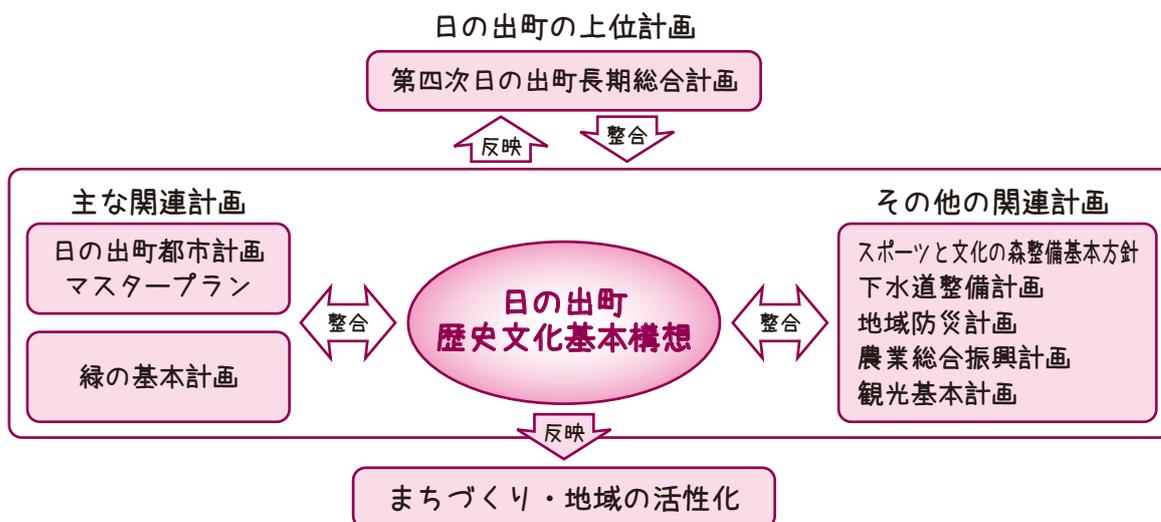
GISとは地理情報システムのことであり、建築物や生物などの地物の位置情報をコンピュータを使って地図に表現する手法です。様々な情報を集めて整理したり、重ね合わせるのに便利な手法です。各種の調査結果は、GISを用いて位置情報を付加させて整理し、空間的に把握して、検討をしました。



< GISの活用による総合的把握 >

④ 行政計画としての位置づけ

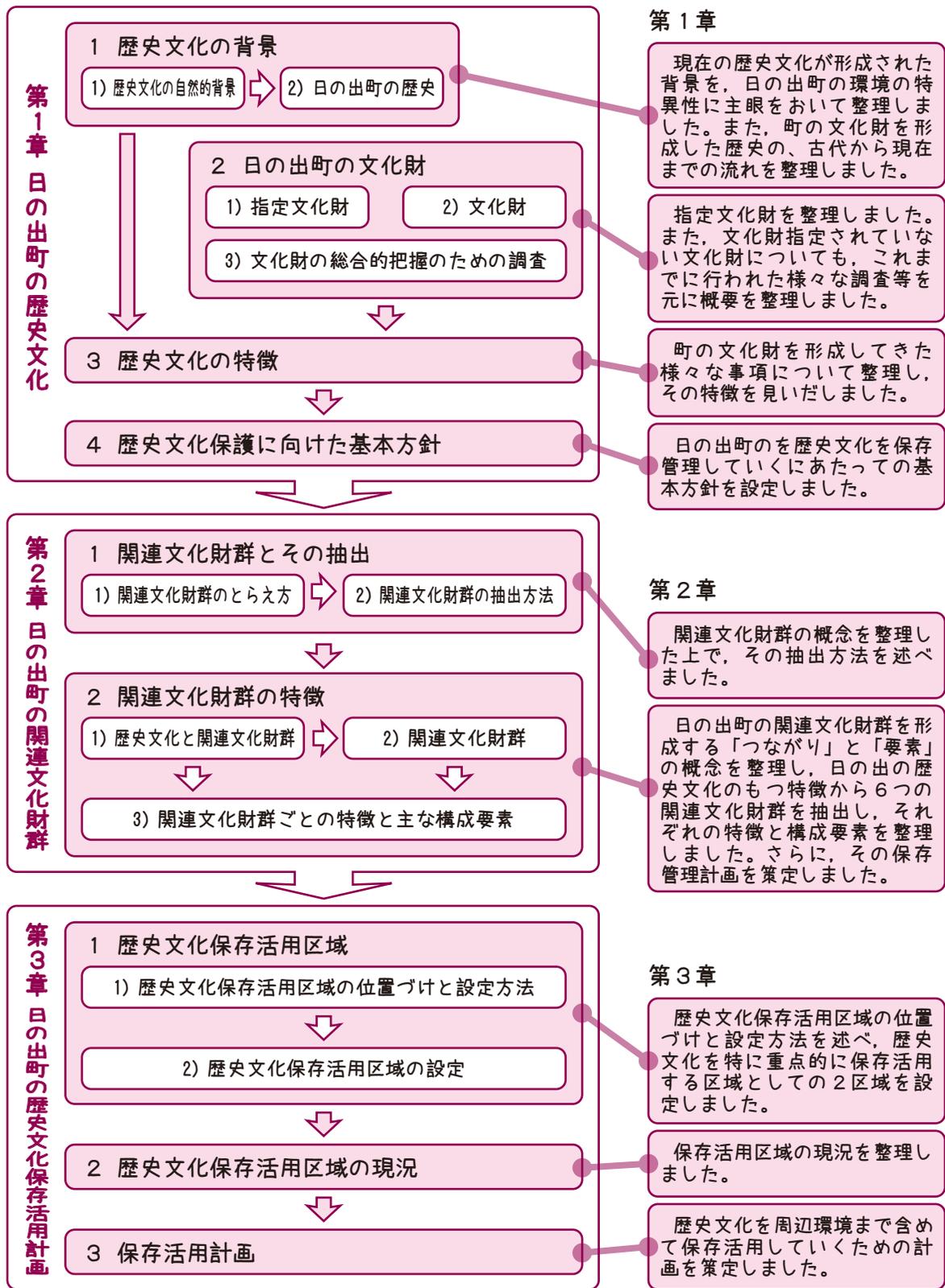
「第四次日の出町長期総合計画」に基づき、関連する「都市計画マスタープラン」や「緑の基本計画」をはじめとする各種関連計画との整合を図りながら、まちづくりや地域の活性化を見据えて、効果的に運用可能な構想の検討を行いました。



< 行政計画としての位置づけ >

3 歴史文化基本構想の構成と内容

本構想の構成と内容を以下に整理しました。



<本構想の構成と内容>